

序

学 長 望 月 日 滋

本学の林是幹教授が古稀を迎えられ、茲にその記念号が出版される事は、誠に同慶の至りであります。

先生は、昭和八年立正大学本科宗教科を卒業され、同十年祖山学院助教授となられてより、学制の変更に伴う本学の名称変更はあったものの、今日迄の長きに亘り教鞭をとられておられます。

信行道場主任、普通試験委員、或いは宗会議員など、宗内にて活躍されている事は、昭和四十五年に一級法功賞を受けられた事でも知られます。学問の間を縫っては久遠寺の要職を、又、社会的には、法務大臣表彰・藍綬褒章受賞に輝く更生保護司、身延町教育委員、身延ロータリー・クラブ会長等の、数多くの活躍があります。

特に、身延で成長され、昭和十八年より端場坊住職となつて、身延山の歴史に就いて研究を深め、各種論文を発表されています。昭和四十三年から四十七年までは図書館長をつとめられ、昭和四十六年には、日蓮教学研究所より『身延山に於ける檀林教育について』の論文に対し、栄えある望月賞を受けられた事は、身延山史研究に対する賜である事は言を要しないものです。昭和四十八年、身延山開闢七百年記念の『統身延山史』編纂に携わり、山梨県教育委員会・本学・立正大学の三者合同による「身延文庫」調査の国庫補助事業には調査員となるなどは、望月賞の榮譽が当然と思わしめるものがあります。

身延山史研究の第一人者である林先生の古稀を記念し、論集が世に出される事は、先生のためのみならず、宗門・身延山にとつても寔に有意義と思われれます。先生の学問・探究心が今後ますます盛んとなり、更に研鑽を積まれ、我々に余滴を垂れん事を願つて止まないものです。